

私の ルキ時代



もあったが、その度に施主の男性に謝罪しながら修正。そうこうしながらリフォームは無事、完成した。

これまでは、施工しても住人の顔を知ることとは決してなかった。入社3年目にして初めて、住む人の顔を見る

「入社して3年間は、柏市）の鈴木一功社長 だったが、入社3年目の退職するタイミングをだ。父親が創業した同時、中古住宅を購入した社に21歳で入社。大手 た家族のリフォームをの面白さを体験すること

とができた。

業務をこなしていた。」

20年続けた理由は住人の笑顔

「失敗もあったけれど、最終的にお客さんから感謝された」（鈴木社長）

は、注文住宅の建築やリフォームを行うクリエータ

ハウスメーカーから請け負う仕事は、渡された図面通りに施工するだけ。日々の業務に面白みを見いだすことができず、辞めることばかり考えていた。

つまらない日々を過ごしていた鈴木社長だが、行うことになった。家族の思いがかなう家にするべく、壁の色や、扉の位置など、何度もある施主の男性と打ち合わせを重ねた。施工中は、計画と異なる仕上がりがなったり、誤った色で塗装したりすることだ。



クリエータ 鈴木一功社長(40)